

令和2年度 自己評価計画書

1 教育活動

石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
(1) 生きる力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの充実	小中高	学習指導要領の改訂に伴い総則や各教科等の趣旨を把握し対応する必要がある。児童生徒は少人数のため、思考の広がりや深まりに課題がある。また、児童生徒は学習空白があることが多く、前籍校への復帰又は進学・就職に向けての支援を適切に行う必要がある。	【満足度指標】 新学習指導要領の理解を深める。児童生徒の状況を把握共有し、主体的・対話的で深い学びにつながる実践を行う。児童生徒が理解できた、深く学んだと感じる。	授業に自ら取り組み、授業内容を理解できたとする児童生徒の割合は A：80%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末まとめ 【評価対象】 AB組児童生徒
		病棟訪問教育	学習指導要領の改訂に伴い総則や各教科等の趣旨を把握し対応する必要がある。児童生徒は障害が重度で表出が微弱であるため、受容や表出、変容の捉えに課題がある。	【努力指標】 新学習指導要領の理解を深める。児童生徒の受容や表出を細やかに捉え、フィードバックし、主体的・対話的で深い学びにつながる実践を行う。	コミュニケーションに配慮した指導・支援を行い、事例検討会や記録の活用を通して、指導・支援の改善が見られたと考える教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 病棟訪問教育担当教員
(2) 教員の専門性の向上及び働き方の工夫	① 授業力向上・ICT等の効果的な活用	教務課	病弱の児童生徒に対しICTを活用して授業を行ったり授業映像を視聴し分析を行ったりしている。授業の目的に沿った活用を更に充実する必要がある。	【成果指標】 授業や授業分析でICTを活用し、児童生徒の目標達成につなぐことができる。	ICT等を活用した研究授業や改善授業をとおして、授業目標の達成につなぐことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
		教務課	多様な病種の児童生徒が在籍しており、適切な指導のため病種理解が必要である。新任者等への研修も充実する必要がある。	【努力指標】 病種理解の研修会を多く開催し、研鑽を積み指導に生かす。	病種理解のための校内研修会を受け、児童生徒への対応や指導に活かすことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
		教頭	小規模校のため、一人の教職員が複数の業務を兼務しており、勤務時間外に校務処理を行う場合も多い。意識は高まったが、時間外勤務に大幅な変化はない。	【努力指標】 一人一人が効率の良い校務処理や業務改善を推進し、授業準備や研究等にあてる時間を増やす。	効率よく業務に取り組み、業務改善を行って時間外勤務時間を減らすことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員

(3)	安心安全な学校作り	①	ヒヤリハットの活用	指導課	事故には至らなかったもののヒヤリ、ハットした事例が前年より件数増加。朝礼や職員会議で周知している。	【努力指標】 重大事故を防止するために、事故の発生が予測されたヒヤリハットの段階で報告し対処する。	ヒヤリハットの報告・周知を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 教員
		②	安全防災対策の充実	指導課	危機管理対応として、授業や訓練、各種研修会を実施し児童生徒・職員の意識を高めている。実際に行動できるよう情報共有、体験活動が必要である。	【満足度指標】 実際に想定した状況で体験活動を行い、緊急時に各自が判断し行動できるようにする。	安全防災に関する授業や研修等を受け、訓練において実際に判断し行動できた児童生徒・教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	訓練や研修会実施後 中間・年度末まとめ 【評価対象】 小中高児童生徒・教員
(4)	保護者、病院、地域との連携	①	教育活動への理解のための広報活動の推進	総務課	学校だよりやホームページを通して情報発信している。	【満足度指標】 学校だよりやホームページで、有益な情報を得ることができる。	学校だよりやホームページにより、学校における新しい情報を得ることができたと回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 保護者

2 センターの機能

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考		
(1)	小中高等学校・特別支援学校・関係機関との連携	①	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	地域の小中学校病弱特別支援学級担当者や養護教諭等と繋がる機会が増えた。担当者が毎年替わる学校が多く繋がりを持し深めていく必要がある。	【努力指標】 担当者が替わっても繋がりを持し深めるため、アンケートの協力依頼や定期的な電話連絡等を行う。	電話等連絡を取り合う機会が各学校 A：3回以上あった B：2回あった C：1回あった D：なかった	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 コーディネーター、専門相談員
		②	小中高等学校・特別支援学校等への情報提供	教務課	地域小中高等学校・特別支援学校等に対して病弱特別支援学校として研修会を開催し、高い評価を得た。今後も継続していく必要がある。	【満足度指標】 講演会・研修会の参加者が有益な情報を得ることができる。	講演会・研修会の内容が参考になったと回答した外部参加者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	中間・年度末調査（講演会終了後、アンケートを実施） 【評価対象】 外部参加者
(2)	前籍校・病院等との連携	①	児童生徒に即した支援の充実	小中高	慢性疾患の児童生徒は病状回復途中で前籍校に復帰したり進学・就職したりする。そのための支援を適切に行う必要がある。	【努力指標】 前籍校や病院等と情報交換し次のステップに向けて個々に応じた支援を行う。	前籍校や病院等と連携し、個々に合わせた支援を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	中間・年度末調査 【評価対象】 AB組担任